

性感染症予防における感染予防行動・早期受診促進に関する研究 ～中高生向け啓発スライドの活用について～

- 【研究分担者】 白井 千香 (枚方市保健所・大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学)
【研究協力者】 岩室 紳也 (ヘルスプロモーション推進センター [オフィス] いわむろ)
種部 恭子 (女性クリニック We! TOYAMA)
野々山未希子 (自治医科大学看護学部)
渡曾 睦子 (東京医療保健大学医療保健学部)

研究要旨

性感染症に関する特定感染症予防指針に示されている若年者への情報提供について、H27年度は中高生向け啓発スライド「性感染症ってなあに」を作成した。H28年度はそのスライドを対象である中高生にどのように活用するか、当事者に向けて、Webサイトで閲覧できるように公開した。ただし、性感染症学会等の任意団体でのサイトに載せた段階では、中高生が一般的な検索エンジンから探すことは容易ではなく、スライドの普及が十分ではないため、スライドの評価については課題を残した。

今後は、誰もがアクセスしやすい啓発方法が必要である。当事者に必要な情報が届くよう、実際にスライドを閲覧したり、啓発に使ったりした評価を図り、適切な行動を促すべきである。

A. 研究目的

性感染症に関する特定感染症予防指針(平成24年1月一部改定:健感発0119第1号)には、「対象者の実情に応じた対策」の中で、「…若年層に対しては、性感染症から自分の体を守るための情報について、適切な人材の協力を得、正確な情報提供を適切な媒体を用いて行い、広く理解を得ることが重要である。」と示されている。前年の平成27年度に、適切な媒体として啓発スライドを作成したので、性感染症について若年者に適切な受診行動を促すよう、スライドの普及と評価を試みることにした。

B. 研究方法

平成27年度に作成した中高生向け啓発スライド「性感染症ってなあに」(解説付き47枚)を日本性感染症学会など関連のWebサイト上で一般向けに閲覧できるように、スライドをPDF化して公開した。その後の反響として、感想、意見、問い合わせなどからスライドが効果的かどうか、研究協力者間により、メール等で議論し評価することとした。

倫理面への配慮

啓発スライドの公表とその閲覧に関して、個人情報扱うものではないため、特になし。

C. 研究結果

一般向けに、閲覧可能なWebサイトは、以下の通りである。

- ・日本性感染症学会 <http://jssti.umin.jp/> 平成28年6月30日に公開。
- ・全国公衆衛生関連学協会連絡協議会 <http://japhsa.jp/> 平成28年7月10日に公開。
- ・健やか親子21 関連サイトにて、性感染症予防啓発ツールとしてスライドを紹介した。

当初、厚生労働省のWebサイトで健康局結核感染症課の「性感染症」関連で掲示しているポスターや冊子と同様に、当研究班で作成したスライドの掲載を予定していたが、対象が中高生であるため、文部科学省との調整が必要であり、閲覧の対象が限定されないため管理上、省内のサイトでは適切ではないと結核感染症課

から論され、任意団体の学術情報として、であれば、団体の責任の下で掲載することは制限なく妥当であるとされた。

スライド掲載後の反応は、医療関係者から、スライド内容の問い合わせや意見があり、また、学校関係者（定時制高校）から、スライドを使用する際の条件や問い合わせ、健康教育の依頼があった。

D. 考察

啓発スライド（47枚）は、1枚の情報量をあまり多くせず、イラストや表で中高生にわかりやすいよう、解説付きで作成した。ただし、Webサイト自体、学術団体のものであり、一般公開ではあるが、中高生にはアクセスしにくい状況であった。スライド公開の反響は、この分野に関心の高い医療関係、教育関係からの問い合わせ等であったが、サイトへの閲覧数が何件であったのか、学校等で活用されたのか、当事者がこれらの情報にたどり着いたのか、必要な対象にスライドが生かされたのか等は、評価できなかった。スライドの閲覧が広がるためには、GoogleやYahooなどの検索サイトで、中高生が、直接この啓発スライドにつながるキーワードや閲覧回数が条件になるのではないか。

課題として、スライド作成や公開は啓発資料の情報提供のひとつの手段であり、これらを使って感染予防行動や早期受診を促されたのか、その効果を評価すべきである。スライドが伝えている情報は、「性感染症の予防方法」と「心配なときは受診すること」を知識として得るポピュレーションアプローチと、「いざというときには受診できる」行動へつなげるハイリスクアプローチであり、実践的な効果について、まずは普及し多くの対象者に目に留めてもらうことが重要である。

また、学校での指導者向けの資料作成を意図していたが、性感染症に関する特定感染症予防指針の改定が予定されているため、啓発の方針を確認してから、企画することと考えた。さらに文部科学省では、学習指導要領の改訂が予定されており、性に関する健康や感染症予防について、特化されず、生きる力としてまとめられることも考えられる。予防啓発としての情報提供の内容や方向性については、各関係機関や団体との調整が余儀なくされる。誰のために、何のための対策なのかを踏まえて、実行性のある基盤整備が必要である。

E. 結論

中高生向け啓発スライドを、Webサイトに掲載したが、一般への普及が不十分であり、スライド活用の評価にはいたらなかった。今後、誰もがアクセスしやすい普及方法が必要である。当事者に必要な情報が届くよう、実際にスライドを閲覧したり、啓発に使ったりしたことを評価し、適切な行動促進に資するべきである。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

感染予防行動・早期受診促進 ～予防啓発資料の活用～

- 中高生向け啓発スライドの作成（H27年度）

「性感染症ってなかに」 解説テキスト付47枚 PDF

- スライドの公表：活用への環境整備（H28年度）

- 厚生労働省HPへの掲載 ⇒ 対象者が限定不可／文科省との調整が必要

＝時期早尚？公的な不特定対象のサイトでは難あり、学会等任意団体サイトでは掲載可

- 日本性感染症学会ホームページに掲載（H28年6月30日）

<http://jssti.umin.jp/pdf/keihatu20160630.pdf> 学会としても、教育啓発委員会の活動として報告

- 公開後の影響について、いくつかの関連団体等でウェブサイトでリンク掲載や、内容についての意見問い合わせ、学生向け性感染症講演の相談等があった。
- 実際に若年者が閲覧しているか、当事者の反応はどうかのフィードバックは不明であり、また、教育関係者の関心はあるが、このスライドの活用や普及については、未評価である。

「性感染症ってなかに」の掲載サイト

- 日本性感染症学会HP <http://jssti.umin.jp/>

（中高生向け）性感染症予防啓発スライドを掲載しました。（2016.6.30）

<http://jssti.umin.jp/pdf/keihatu20160630.pdf>

- 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会 <http://www.japhsa.jp/>

【日本性感染症学会からのお知らせ】2016年07月10日

…日本性感染症学会教育啓発委員会で、以下の啓発スライドを作成しUPしました。

一般公開ですので、広く閲覧、ご活用、いただければ幸いです。

性感染症のリスクに特化して、中高生が直接みてわかるように、疾患の正確な説明ではなく、予防行動に繋がる目的で作っています。

- 健やか親子21関連

http://sukoyaka21.jp/wp/wp-content/uploads/2016/11/kansensho_gakkai.pdf

中高生向け啓発教育スライド 資料作成の経過・現状

研究成果 概要図

中高生向け啓発教育の必要性については、厚生労働科研 研究班代表（日本性感染症学会）と所管課（結核感染症課）との共通認識をもっている。

行政・厚生労働省 から研究班への資料作成の打診（H27年度）

* 文部科学省との調整不足により、国の公式サイトでの公開を控えたが、任意団体の情報として掲載可能とした。

スライド資料の公開（H28年度）

日本性感染症学会 教育啓発委員会（編集）
中高生向け性感染症予防啓発スライド
「‘あなたのため’になる重要なお知らせ 性感染症ってなあに」
スライド作成 <http://jssti.umin.jp/pdf/keihatu20160630.pdf>

学会員（泌尿器科・産婦人科・皮膚科・小児科・内科・看護・検査関係者など医療従事者）・関係団体リンク
* 学会ホームページは、一般住民を含み公開サイトなので、養護教諭・学校関係者にも情報共有が可能。

<学校での活用>
・授業・個別相談
・養護教諭等から中高生に情報提供

課題 スライドの普及・活用の効果

- ・感染予防行動のポピュレーションアプローチとして予防啓発の評価

例) スライド掲載のサイト閲覧数 学校等でのスライド活用
必要な対象に届いているか？

- ・早期受診促進について、「受診することが大切」という知識はポピュレーションアプローチであるが、「いざというときは受診できる」という行動は、ハイリスクアプローチにつながる。
- ・誰もがアクセスしやすい啓発方法が必要である。当事者に必要な情報が届くよう、実際にスライドを閲覧したり、啓発に使ったりした評価を図り、適切な行動を促すべきである。